



パイロット養成に向けた
連携協力協定を結ぶ鹿児島
大学の佐野輝学長（中
央）ら11月5日午前、鹿児
島市の鹿大

鹿大からパイロットに

鹿児島大学と日本航空（JAL）、日本エアコミュニケーション（JAC、本社・霧島市）は5日、パイロットの養成に向け、連携する協定を結んだ。航空会社にとっては長期間の訓練と高い費用負担が課題になっており、学生に訓練の機会提供や金銭面で支援することで優秀な人材を地元で育てるのが狙い。毎年2人程度をJACが採用する。JALが同様の協定を結ぶのは九州で初めて、JACは初。

対象は学部の3年生と医学部など6年制課程の5年生。鹿大で11月以降に説明会を開き、12月から来年1月にかけて書類選考や面接などで8人を選ぶ。年度内に2週間程度の訓練があり、大学が2人を推薦し、JACが選考する。

卒業後はパイロット養成コースがある熊本の崇城大で学ぶ。通常は4年間だが、

2年間で終え、数千万円かかる費用の一部を3者が支援。最短で2024年4月に入社する。

協定期間は5年間で、延長もある。連携協定の締結式は鹿大であった。JACの越智（おち）健一郎社長（53）は「JALを再生した稲盛和夫名誉顧問の縁で、鹿児島に貢献する人材を育てられる。その循環を太く広げられたら」。JALの立花宗和運航本部長（54）は「長年磨いてきたノウハウを生かし、パイロットを養成する。学生が可能性に気付くきっかけを提供したい」と話した。

佐野輝学長（63）は「卒業生も活躍しており、獣医学科からパイロットになったケースもある。経済状況にかかわらず、パイロットを目指すチャンスを与えられることをうれしく思う」と述べた。（永井貴士）

JAL、JACと連携
年2人程度養成